

令和3年度
保育所の自己評価
月出保育園

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、月出保育園では毎年自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力していきます。

【評価について】

評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。

A: 大変良い

B: 良い

C: 一部検討を要する

D: 改善を要する

【第1章】総則

I 保育所保育に関する基本原則

	評価項目	評価
保育所の役割	①子供の最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場になることを理解している。	A
	②子どもの人格尊重を意識して保育を行っている。	B
目標	①保育目標を年度初めに職員で確認している。	A
	②保育目標を職員や保護者などに見やすい場所に掲示するとともに、園だよりや配布物を通し周知している	A
保育の方法	①子供一人一人の特性や発達過程に応じ発達の課題に即した援助を行うよう心がけている。	B
	②子どもの主体的な活動を促し、意欲を以て遊べるような援助を心がけている。	B
環境	①健康的に過ごせるよう、保育活動の配分に気をつけている。	B
社会的責任	①HPなどを通して地域の人に保育園を理解してもらうよう努めている。	A
	②個人情報適切に扱い、保護者の苦情に対し解決を図るよう努めている。	A

II 養護に関する基本的事項

養護の理念	①養護と教育を一体的に行うことを意識して保育にあたっている。	B
	②「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域から構成されていることを理解している。	A
生命の保持	①一人一人の健康状態や発達について把握し、異常に気付くことができる。	B
	②生理的欲求が十分に満たされるようにしている。	B
情緒の安定	①子どもの気持ちを理解し、信頼関係を築くよう心がけている。	A
	②自分の思いや意見をはっきり伝えることができるよう配慮し、尊重している。	B

III 保育の計画及び評価

全体的な計画の作成	①全体的な計画の作成には、職員が参加している。	A
	②長期的な見通しをもった計画をたて、職員で共有している。	B
指導計画の作成	①日常の保育を通して、子どもの思いや気持ちを汲み取りながら指導計画に反映させている。	A
	②各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	A
	③日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を作成している。	A
	④3歳未満児は、一人一人の子どもの発達状況、保育計画、生活状況について作成している。	B
	⑤子どもが主体的に活動できるよう環境設定している。	B
	⑥長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	B
指導計画の展開	①子どもの実態や状況の変化に応じて、見直しや改善を行っている。	B
評価改善	①園全体としての評価を行い、全職員の共通理解のもとに改善に努めている。	B

IV 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

	評価項目	評価
資質能力	①育みたい資質、能力を理解している。	B
	②長期的な見通しを持った計画を立て、年齢ごとに必要な経験の機会を与えている。	B
姿	①「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解し計画を立て、保育にあたっている。	B

【第2章】保育の内容

I 乳児保育

基本的事項・ ねらい及び内容 保育の実践に 関わる配慮事項	①離乳食については、家庭や調理師、栄養士と連携をとりながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行っている。	A
	②一人一人の生活リズムに合わせて、睡眠をとることができるように静かな空間が確保されている。	B
	③特定の保育士との継続的な関わりが保てるよう配慮している。	B
	④午睡中は体を仰向けにすることを認識して、体温、顔色、呼吸の安全チェックをしている。	A
	⑤生活や遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気づかせて様々なものに触れさせている。	B
	⑥上体を支え、足の動きを促すなど、遊びを通して身体発達の援助を行っている。	B
	⑦オムツの交換、授乳などのサインを見逃さず受け止め対応している。	A
	⑧発生や喃語等を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている。	A
	⑨誤飲、転倒など重大事故につながらないように安全環境に配慮している。	B

II 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容

健康	①生活リズムについては、一人一人の状態に合わせて対応している。	B
	②走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを取り入れている。	B
	③楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする気持ちを大切にしている。	B
	④身の回りを清潔に保つ心地良さを感じ、その習慣が少しずつ身につくように援助している。	A
	⑤子どもが自分で衣服を着脱しようとする気持ちを尊重している。	A
	⑥一人一人の排泄状況に応じた配慮をしている。	B
人間関係	①保育士等との安定したかかわりの中で、園生活を送れるようにしている。	A
	②他の子どもと関わり方を少しずつ身に付けられるよう仲立ちをしている。	B
	③自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している。	A
環境	①玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達にあったものを選び使用させている。	B
	②積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している。	B
	③見る、聞く、触れるなど感覚の働きを豊かにしている。	B
言葉	①楽しい雰囲気の中で保育士等との楽しい言葉のやり取りができるようにしている。	A
	②絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	A
表現	①水、砂、土、紙、粘土などさまざまな素材に触れて楽しませている。	B
	②音楽、リズムなどに親しみ、歌や手遊び、全身を使う遊びを取り入れている。	B
	③子どもの表現をしっかり受け止め、共感している。	B
表現	①体の状態、機嫌、食欲など日常の状態の観察を十分行うことで感染症を予防している。	B
	②事故防止に努めながらさまざまな遊びを取り入れている。	B
	③進級などで保育士が変わる場合は、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している。	A

III 3歳以上の保育に関わるねらい及び内容

健康	①生活に必要な基本的な習慣や態度が見につくよう保育している。	A
	②食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味や関心を持てるようにしている。	A
	③十分に体を動かす気持ち良さを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう援助している。	A
	④園内外の危険な場所を知り、安全に気をつけて遊ぶように働きかけている。	A

	評価項目	評価
人間関係	①友達と共通の目的を見つけたり、遊びを一緒に工夫、協力して共に達成感が味わえるように働きかけている。	B
	②良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動できるように援助している。	B
	③友達と生活する中できまりの大切さに気づき守れるように配慮している。	A
	④生活や遊びの中で、意欲を大事にして頑張ろうとする力、自信、自己肯定感を持てるような言葉かけや援助をしている。	A
	⑤身近な友達との関わりを通して、相手を思いやり譲り合う気持ちを持てるように援助している。	A
環 境	①園生活の中で、数量や図形、文字に触れる機会を取り入れている。	B
	②伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている。	B
	③自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている。	B
言 葉	①人の話を聞くことができ、日常生活に必要な挨拶や会話を身につけさせている。	A
	②絵本や紙芝居など通して、物語の楽しさや言葉のおもしろさに気づくように心がけている。	A
	③子どもが自分の体験や要求を自分なりに表現できるように配慮している。	B
表 現	①音楽に親しみ、歌を歌ったり、踊ったり、リズム楽器を作ったりする楽しさを味わう機会を作っている。	B
	②一人一人の子どもの表現の過程を大切に、自己表現を楽しめるよう心がけている。	B
配慮事項	①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解し保育にあたっている。	B

IV 保育の実施に関して留意すべき事項

保育全般に関わる 配慮事項	①一人一人の子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえ、気持ちを受け止め援助している。	B
	②子どもが安定感を持ち、生活できるよう配慮している。	A
小学校との連携	①小学校との意見交換や合同の研究の機械などを設けて情報共有や連携を図っている。	B
	②子どもにおける情報共有に関して保育所児童保育要録を作成している。	A
地域社会との連携	①園の様子や行事などについて地域の人に見てもらえるようにしている。	B
	②ボランティア、体験保育の人々を受け入れている。	B

【第3章】健康及び安全

I 子どもの健康支援

健康発達	①感染症発生時に、発生状況や感染予防策について保護者に通知している。	A
	②不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携対応している。	B
健康増進	①健康診断と歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達している。	A
	②子どもの健康情報を共有し、子どもの既往症（アレルギー、熱性けいれん、脱臼癖、喘息など）について、すべての職員に周知するとともに、その発生時の対応を行っている。	A
疾病等への対応	①アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子どもに対し、主治医からの支持を得て、適切な対応を行っている。	A
	②アレルギー疾患を持つ子どもに対し、栄養士、調理師と連携を持ち、個々に合わせた対応を行っている。	A

II 食育の推進

保育所の特性を生かした食育	①乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、給食について見直しや改善をしている。	A
	②乳幼児に身につけておきたいあいさつや姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている。	A
	③年齢に適した食材の量や形状を保護者に知らせている。	B
環境整備	①調理師、栄養士、保護者と連携を持ち、個々に合わせた対応を行っている。	A
	②子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心がけている。	A

III 環境及び衛生管理並びに安全管理

環境及び衛生管理	①園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地良く過ごせるよう配慮している。	A
	②生活の場面にあった保育士の声、音楽など音に配慮している。	A
	③園内に子ども達が季節感を味わえるような工夫をしている。	A

	評価項目	評価
事故防止及び安全対策	①ヒヤリハットを共有し事故防止に努めている。	A
	②睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを認識し、事故防止に努めている。	A
	③外部からの侵入に対し、マニュアルに沿った動きがとれる。	B

IV 災害への備え

安全確認	①消火器、火災受信機、配電盤の設置場所がわかり、操作方法を知っている。	A
	②施設の安全点検を行い、改善している。	B
避難への備え	①さまざまな災害を想定した避難訓練を行っている。	A
	②保護者との連絡体制や引き渡し方法が確認されている。	B
連携	①地域や地域の関係機関と連携を図り、協力が得られるように努めている。	B

【第4章】子育て支援

I 保育所における子育て支援に関する基本的事項

支援と留意事項	①保育は日常、保護者や子供の様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている。	A
	②保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心がけている。	A

II 保育所を利用している保護者に対する子育て支援

保護者との相互理解	①送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換に加え、別に機会を設けて相談に応じたり個別面談を行っている。	A
	②家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて関係職員に周知されている。	A
	③園だよりやクラスだよりなどを定期的に発行している。	A
	④あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている。	A

III 地域の保護者に対する子育て支援

地域の子育て支援	①地域における子育て支援を実施し、地域の子育て支援ニーズを把握するよう努めている。	B
	②子育て支援の情報提供をしている。	B
連携	①子供の医療や保健に関する問題について、連絡、相談する外部の関係機関を把握している。	B

【第5章】職員の資質向上

I 職員の資質向上に関する基本的事項

保育所職員の求められる専門性	①相手の立場にたった挨拶、電話、来客対応ができています。	B
	②自己の健康管理ができています。	A
	③保育業務の中で知り得た子供や家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている。	A
	④保護者や地域の人からの相談事項について、プライバシーの保護、話された内容の秘密保持を徹底し、守られている。	A
質の向上に向けた組織的な取り組み	①業務遂行にあたって、正確、迅速かつ、報告・連絡・相談を実践している。	B
	②公平に人の話を聞いたり、話ができ、正確に伝達できている。	B
	③問題意識を共有しながら職員間で共通理解し、協力している。	A

II 職員の研修等

研修の活用	①園内研修を行っている。	A
	②各職員について、適切な研修機会の確保を行っている。	A

【附則】

令和3年度の自己評価 対象保育士数 16名

第2章に関して新任保育士は担当クラスについてのみ回答

【園全体の評価】

- ・令和3年度もコロナ禍で登園自粛を呼びかける時期もあったりと、従来通りの保育を行えない状況ではあったが、感染予防対策を行いながら職員間で話し合いを重ね、保育内容・環境の工夫を行っていった。
- ・評価の結果、「改善を要する」という回答はなかったが、「一部検討を要する」という回答は幾つかあった。項目としては昨年と同じく保護者支援や地域との連携不足が挙げられていた事に加えて、小学校との連携や医療・保健問題についての関係機関の把握・連携を課題とする回答が増加した。現状を理解しつつも改善すべき所はないかとの問題意識の表れだったと思われる。
- ・保護者への情報発信ツールとして、サイネージやHP、メール等を活かす場は増えた印象を受ける。研修もリモートが多くなり、受講の場が失われなかったことは職員の研鑽を高める機会となり、良かったと思われる。

【来年度の課題】

- ・自己評価で職員が課題と感じていることに関して、引き続き話し合う機会を持ち、改善点を見出していくと共に、全職員で情報共有出来るようにする。
- ・コロナウイルス感染防止対策を継続していくが、4年度は前年度のように自粛を呼びかける場面は減少すると予想される。園外行事や地域交流等も以前のように行われる事を期待すると共に、保護者支援や地域交流で課題となっている事を計画に反映させ、実践へと繋げていきたい。
- ・職員の研修は4年度もリモート研修等を活用し、研鑽の場の確保に努める。また、園内研修も職員からの意見を聞きながら現場に活かせるテーマ・内容にしていきたい。